

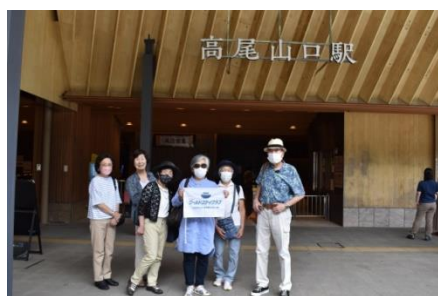
高尾山コロナ退散祈願 名物高尾そば賞味

企画委員会

東京近郊の標高 599mの高尾山薬王院で、新型コロナ退散祈願の参拝をしました。ケーブルカーが山頂近くまで通じていますので、ほんの少々の上り気分が参拝できました。参拝後は再びケーブルカーで下山し、名物の高尾そばを賞味しました。

少人数での催行でしたので、親戚の集りのような雰囲気が高尾山小登山と参拝を味わいました。

ワールドステイクラブの旗を、企画旅行で使うことが復活しました。以前、WSCの旗がありましたが事務所の引っ越しなどで失われていました。今回これを復活しました。旗のサイズは A3、文字はやや淡い青色です。



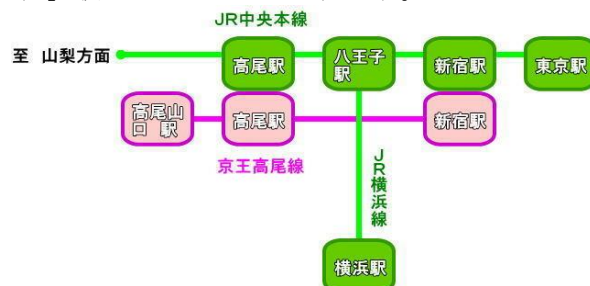
高尾山口駅前で記念写真
ワールドステイクラブの旗を掲げて

日時: 2022年8月24日(水) 日帰り
集合: 9時30分 新宿京王線 西口 改札
交通費: 高尾山往復切符 1390円 (含むケーブル)
歩数: 1万歩
経路: 京王新宿駅発 9:49 特急高尾山口行き
ケーブルカー乗り換え 高尾山 11:07 着
徒歩登山 20分 薬王院着参拝 境内散策
薬王院鐘楼 12時の合図を聞く
奥の院など参拝 徒歩戻り
ケーブルカー乗車下山 下車
高橋家 14:30~そば賞味+ビール
特急高尾山口発 14:28 新宿着解散

参加者 7名

高尾山は鉄道が便利

京王線を利用して終点「高尾山口」駅で下車、少々歩いて「清滝」駅からケーブルカーに乗車、終点「高尾山」駅までのラクチン登山です。



高尾山への登山 身体が清浄になる気分

ケーブルカーを降りると、すぐに登山路になりました。標高 599mの高尾山山頂の手前にある、薬王院までの参道が登山路です。半時間ほどをかけ、ゆっくりと生い茂る千年の巨木を見たり、参道の灯籠や童子の像を眺めたり、杉苗木の寄付者の板垣の名前を見たりして、少しずつ薬王院へ歩を進めました。

このゆっくりした動きで、都会の空気にさらされた身体が、高尾山の空気に入れ替わり清浄になる気分をもたらしてくれました。



高尾山 薬王院 病氣治癒の仏さま

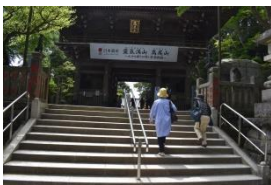
正式の寺名は高尾山薬王院有喜寺です。参道の両側に続く杉並木の巨木からは、自然の厳かさがひしひしと伝わってきました。

寺歴によると、744(天平16)年に聖武天皇が東国鎮護の祈願寺として開山されました。奈良時代の国家仏教の証です。薬師如来が安置されたので、薬王院となりました。この時代には、病氣は悪霊のせいであり、お祈りで治療することが唯一の手段でした。病氣を治してくれる薬師如来は、頼もしい仏さまとして大人気でした。

薬師如来の正式名は薬師瑠璃光如来で、東の方角にある瑠璃光浄土におられます。極楽浄土は西の方角ですので、薬師如来はこの世の現実的な願い事かなえてくださる特別な仏さまです。「今助けてくださる」仏さまです。薬師如来の左右には、日光菩薩と月光菩薩が控え、この三尊の周りには十二神将が護衛しています。また、東西南北には、四天王の持国天・広目天・増長天・多聞天がにらみを利かせています。

聖武天皇のこの時代、飢饉があり、疫病が流行り、内政も混乱していました。741（天平13）年に、国家鎮護を願い、各地での国立の寺院や国分寺の建立の詔を発しています。寺院造りは大工事であり、技術者や職人の手配、木材と石材の準備など多くの難題があったようです。しかも全国一斉でしたので工事は遅れるようで、督促の詔が747（天平19）年発せられています。建立が終わってからは、その維持も大変でした。このような状況下で、ここ高尾山薬王院の建立と維持の困難も同様だったと思われます。よくぞ、現代まで続いてきたものです。

薬王院 仁王門



石段の上に聳えていました。この石段を避ける道はありません。息を整え、一段一段ゆっくりと歩を進めました。仁王門の両側、阿吽の二像

にご挨拶をしてめぐりぬけました。仁王門には数多くの風鈴が吊るしてあり、爽やかな音色を響かせていました。季節柄、一層の冷気を感じました。仁王門の上には、「日本遺産霊気満山高尾山」の掛け幕がありました。こちらは、冷気ならぬ霊気です。

本殿へはさらに石段がありました。これが最後とおもい、願い事を胸で唱えながら、足の力を振り絞って登り切りました。

薬王院 大本堂 彫刻で装飾 両脇に天狗の像



まずは、お線香をあげました。線香の香りと煙を十分に身にまとい、石段の足の疲れを忘れ、なにやら厳かな気持ちになって参拝です。第一はコロナ退散、そして次に各自思い思いに願い事をしました。

薬王院 鐘楼 正午の鐘



願い事の参拝が終わった頃、鐘楼では正午の鐘が鳴り出しました。鐘の音に乗せて、願い事を届けてくれているようでした。ご利益、

ご霊験の期待が、大いに膨らみました。

愛染明王 ぼけふうじ



鐘楼の近くにありました。平仮名で、やさしく「ぼけふうじ」とあり、一も二もなくお参りです。

本社 権現堂 華麗で極彩色の装飾



お参りのご霊験か、勇氣百倍、勇氣凜凜。さらなるご利益を期待して、さらに続く石段を登り本社へ参拝しました。立派な朱塗りで、やはり天狗さんの像が迎えてくれました。左手にある陪臣のお狐さんへも参拝し、鉄製の大きな一本歯の高下駄も拝観しました。さらに左手には、大黒様の線彫りのある大きな石塔があり、縁起良きことをお願いしつつお参りしました。



高尾山 眺望絶佳 都内を一望



ケーブルカーを下車し、参道に入ると直ぐに展望台があり、写真撮影のポイントです。遠くの風景に目を向ける子どもと母親の姿は、夏休みアルバムでした。

高尾山 名物タコ杉



参道に最初に出てくるのが、タコ杉です。岩に阻まれ、タコのように根っこが張っていました。

薬王院への道 左急階段 右緩い登り坂



左手が百数十段の石段、右が距離はあるがやや緩めの坂道です。右手の坂道を選びました。

この緩やかな道を辿ると、季節には高尾山の誇るスミレ観察ができ、可憐なタカオスミレやエイザンスミレなどなどがあるはずですが、今回は、時期ではなかったのでしょうか、そのお姿は拝めませんでした。

急な階段 帰りにびっくり



参拝が終わり、石段を下りようとしてびっくりしました。その急なこと、急なこと。手すりにつかまりながらゆっくりゆっくり、文字通り一足毎に身体を安定させて下りました。

高尾山名物 高尾蕎麦

参拝を済ませ、目いっぱいのお願い事をして、いよいよお食事と喉潤しです。

清滝駅近くの老舗高橋家で、高尾名物そばをいただきました。お店は旧家風の造りで、座敷があり、土間には椅子席が整えてありました。関東風の濃い味のたれ、やや黒の腰のあるそば、薬味は少々のみじん切、そばそのものの風味を賞味する道具立ては十分整っていました。

とろろそば、天ぷらそばなどを注文された方もあり、それぞれお好みのそば賞味スタイルを発揮されていました。そして、もちろんビールも・・・



高橋家前でも記念写真

高尾山 ケーブルカー 日本一の急勾配



出発駅清滝の標高は201m、到着駅高尾山の標高は472m、その差271mをわずか7分で結んでいます。到着の直前は、日本一の急勾配だそうで、なかなかスリルがありました。

高尾山 自然研究路 各世代へ楽しみを提供

- [1号路] 薬王院参道を辿る道 今回辿った登山路
- [2号路] 南北斜面を周遊
- [3号路] 南山腹の道 木橋があり中級向け
- [4号路] 北斜面の道 吊り橋あり難易度高し

[5号路] 秋の草花が楽しめる 初心者向け

[6号路] びわ滝コース 中級者向け

上水道 それまでの沢の水浄化に替えて

東京都水道局が、ポンプで高尾山の山頂まで給水しています。一気に高度を稼げないので、ポンプは200mと370mの二か所に設置してあるそうです。見晴らし台の蛇口から、試飲しました。

帰途参道を下る際、崖の中腹に黒い太い管が露出設置してあり配管を確認しました。

薬王院 寄付者名簿

参道に「杉苗奉納者御芳名」の表示がありました。ずいぶんと大勢の方々が、杉の苗のご寄付をなさっていました。八王子市の名誉市民の歌手北島三郎さんの名前もありました。



京王線 5000系車両 ラッキーでした

帰途高尾山口から乗車した京王線が、なんと新型車両でした。ロングクロスシートの変換座席になっています。

車内の床が木目調で、LED間接照明ともあいまってとても落ち着いた感じでした。そして何よりも感じたのは、走行時の車内に伝わってくる音が小さくやわらかだったことです。車両技術の進歩を、大いに感じさせてくれる車両でした。

参加しての感想

(東京都杉並区)

霊峰高尾山への登山です。新宿から京王線特急で1時間ほど、明治の森高尾国定公園に着きます。小学校の遠足以来だと思います。いつでもいけると思うのにご無沙汰しています。

登山口駅からケーブルカーに乗り、6分ほどで高尾山の中腹「高尾山駅」に着きました。その間、日本一勾配がキツイ登りをケーブルが通過するのなかなか見ごたえがあります。到着した高尾山駅から、薬王院まで1時間ほど歩きました。薬王院は744年に東国鎮守の祈願寺として聖武天皇の勅令により行基菩薩が開山しました。ケーブルで下山して、地元の高尾山でビールで祝杯をあげ無事に帰宅しました。

今回は、芭蕉も訪ねた東北の歌枕の地を歩くのも一計かなと思っています。